

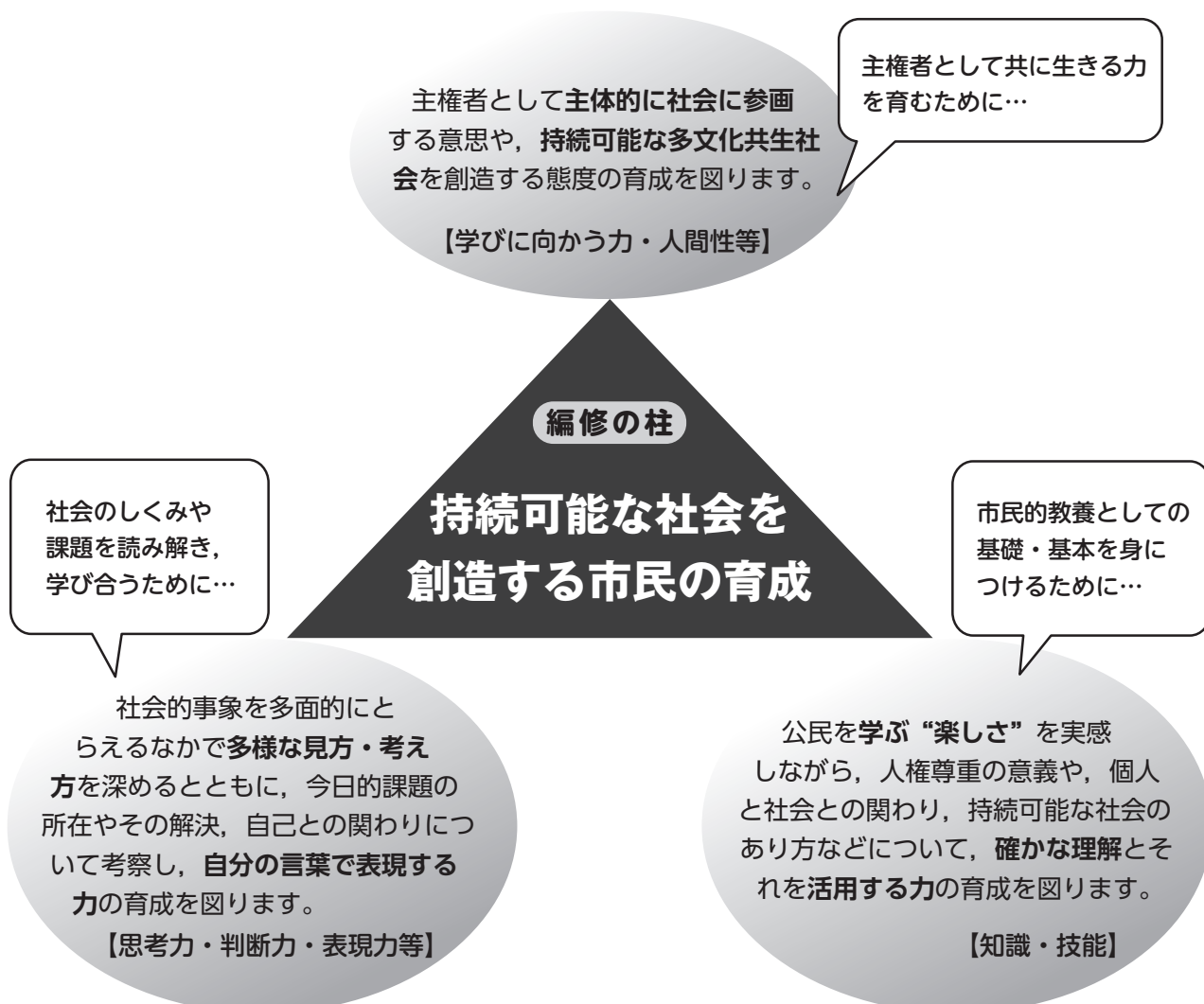
編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-37	中学校	社会	公民的分野	3
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	公民 902	中学社会 公民 とともに生きる		

1. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された「教育の目標（第二条の第1～第5号）」と、学習指導要領に示された「公民的分野の目標」を達成し、社会科のねらいである「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」ことを目指して、以下の柱と三つの方針に基づき編修しています。



【編修の趣旨及び留意点】

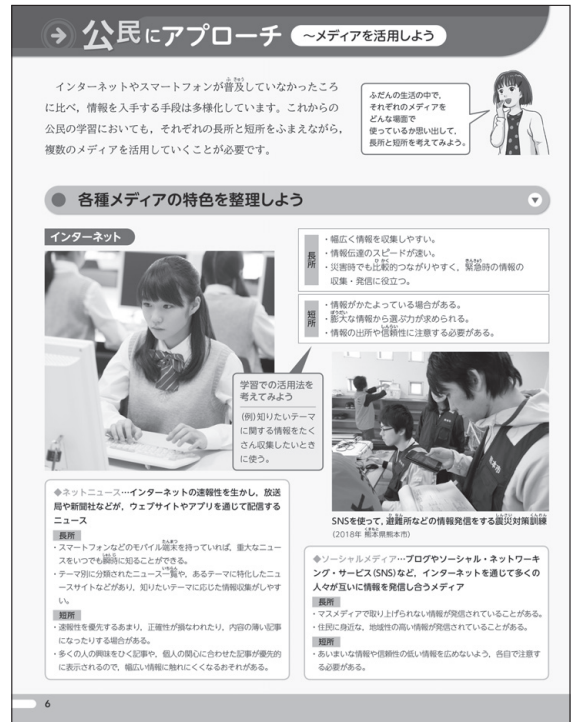
本教科書は、教育基本法第二条に示された教育の目標及び学習指導要領に示された公民的分野の目標を達成するために、以下の趣旨に基づき編修しています。

◆市民的教養としての基礎・基本が身につく教科書

- 生徒が、市民社会を共に築いていくうえで必要な知識や技能を、自らの関心・意欲に沿って無理なく習得することや、その後の学習や社会生活の様々な場面に応じて活用することができます。
- 生徒が、他者とのコミュニケーションを通じて、自分の言葉で表現する力を育み、社会的な見方や考え方を深め合うことができます。



▲p.122～123 「言葉で伝え合おう～まちづくりのアイデアを提言しよう」



▲p.6 「公民にアプローチ」

➡「公民にアプローチ」では、社会科の資料活用の基本ともいえる、各種の「メディア」活用の仕方学びます。表現活動を中心としたテーマ学習「言葉で伝え合おう」では、六つの言語活動に取り組みます。こうした学習を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにしています。

◆現代社会のしくみや課題を読み解き、学び合える教科書

- 生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的な見方や国際的な見地から考察し、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養うことができます。
 - 生徒が、自分なりの枠組みで社会や世界をとらえ直し、自己との関わりを考えて、今日的な課題の所在やその解決について探究することができます。
- ➡例えばp.196～197の「日本の領土をめぐる」では、領土をめぐる今日的課題やその解決について考えを深めます。こうした学習を通して、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしています。



▲p.197 「日本の領土をめぐる」

◆主権者として共に生きる力を育む教科書

- 生徒が、自らも社会を形成していく市民の一人であることへの自覚を高めることができます。
- 生徒が、責任ある主権者として社会に参画しようとする意識や、多文化共生と持続可能な社会の創造を目指して関わり続ける意欲を高めることができます。

▶例えばp.230～233の「私の提案『自分を変える、社会を変える』をつくらう」では、これからの社会を築いていくために、自分には何ができるのかを考え、表現します。こうした学習を通して、**公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う**ようにしています。

また、本教科書は、特に以下の点にも留意して、単元構成や教材の選定を行っています。

●受け継がれる伝統と文化のもつ意義や、多種多様な文化や宗教をめぐる問題について、考察を深めていくことができる教科書

▶「さまざまな価値感の中で」(p.210～211)や、右の教材の学習などを通して、**伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う**ようにしています。

2 私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくらう ▶見直しをもってつくること

学習課題？ 私の提案「自分を変える、社会を変える」を実際に行うためには、どうしたらよいでしょうか。

環境・資源	① 地震・津波・竜巻などの自然災害など ② 地球温暖化をはじめとする環境汚染・公害など ③ 資源力・石炭・石油・水・太陽光・風力などエネルギー及び資源の枯渇、悪廃棄物など
平和・人権	④ 戦争・紛争・テロ、生物化学兵器、対人地雷、水爆弾、核兵器、兵器など ⑤ 民族、性の違いと多様性・LGBT、障がいなどによる差別・偏見など ⑥ 種別・宗教の布教と対立など ⑦ 学校や家庭などで起こるいじめ・虐待・体罰など
経済	⑧ 途上国・先進国間、各途上国・先進国内の経済格差の拡大・貧困など ⑨ 世界人口の増大、日本国内の超高齢・人口減少社会の進展など
健康	⑩ HIV、鳥インフルエンザなどの感染症・疫病など ⑪ 生命を維持させるはずの食・食糧、心身をむしばむ薬物など
教育・文化	⑫ 識字率など、生きるために必要な知識・知恵を得るための制度・施設・人材など ⑬ 世界遺産・地域遺産の保護と継承など
情報	⑭ ICT環境、PC・インターネット・スマートフォン、ソーシャルメディアなど
犯罪	⑮ 地域や学校などで起こる犯罪・事件など

◀ **持続可能性を高める主な課題**
このほかにも、持続可能性を高める課題はたくさんあります。こうした課題について、グローバルとローカルの両面から向き合いながら、自分と社会をどう変えていくのか、考えていきましょう。

私の提案「作成」3
さまざまな課題とSDGsをつなげること
提案のテーマを設定する際には、地球の持続可能性を高める課題とSDGsの関係を明らかにすることが大切です。
まずは、グローバルとローカルの両面から考え、地球の持続可能性を高める課題を選んでみましょう。そして、選んだ課題について考えていくための視点として、SDGsの①から⑯までの目標がどのように関連し、位置づけられているかを確認するとよいでしょう。提案をしっかりとらしたもとしていくための出発点として、SDGsの観点からとらえなおしてみましょう。

私の提案「表現」4
「持続可能な未来」に向けたこれまでのさまざまな社会課題を克服する
な学びの前後で、自分自身の生き方や考え方がどのように広がったか、深まったのかを表現してみましょう。そのための手順を、共有しましょう。
(1) テーマを選ぶ
小学校での学びや、地理・歴史・公民、他教科での学習、日常生活の経験からの学びを振り返り、持続可能性を高める課題の中から、自分が最も切実だと考える課題を理由とともに選んでみよう。また、選んだ課題と関連すると考えられるSDGsも選んでみよう。
(2) 私の提案「自分を変える、社会を変える」を実際につくる
① [表現方法の選択] 私の提案は、物事を空間的にとらえる「地理」の見方や考え、物事の時間的な流れに着目する「歴史」の見方や考え、さまざまな視点から現代社会をとらえる「公民」の見方や考えなど、これまでの社会科での学びを総動員して作成する。その際、レポート、ポスター、動画と絵画、マクラ、新聞記事など、自分が

▲p.230「私の提案『自分を変える、社会を変える』をつくらう」

つなげたい、日本の伝統と文化

現代建築に生きる、五重塔の「柱と礎石」

地域の教育財を語り継ぐ「伝統の祭」

世界に広がる「和食」

日本の「美意識」とは

▲p.24～25「読んで深く考えよう ～つなげたい、日本の伝統や文化」

2. 対照表

図書の内容・構成と、教育基本法第二条の第1号から第5号との対応を示します。

教育基本法第2条

- <第1号> 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- <第2号> 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- <第3号> 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- <第4号> 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- <第5号> 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

教科書の単元構成	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭：公民にアプローチ ～メディアを活用しよう	○各種メディアの資料の読み取りと適切な活用法の学習を通し、生徒が主体的に情報を活用できるよう配慮しました。(第1号)	Op.6～9
第1章 私たちの暮らしと現代社会 学習のはじめに 1節 私たちが生きる現代社会 2節 現代につながる伝統と文化 3節 私たちがつくるこれからの社会 学習のまとめと表現	○ルールのみならず役割を学んだうえで、合唱コンクールの練習場所の決定や地域でのごみ出しのルールづくりに関する学習活動を通して、価値観の違いや人々の関係を調整し、より多くの人々の合意が図られる社会を築いていくことの大切さを学ぶことができるよう配慮しました。(第1, 3号) ○ロボット技術や再生医療の研究をテーマにした「科学の発展」、日本人の「宗教観」、音楽や絵画のもつ力をテーマにした「芸術」、継承や交流という視点に立った「伝統・文化」などを学習する中で、長きにわたり大切に受け継がれてきた、我が国の伝統や文化に対する興味・関心を高められるよう配慮しました。(第5号)	Op.26～33 Op.20～25
第2章 個人を尊重する日本国憲法 学習のはじめに 1節 日本国憲法の成り立ちと国民権 2節 憲法が保障する基本的人権 3節 私たちと平和主義 学習のまとめと表現	○1節では、憲法学習の導入として、憲法を学ぶ意義や日本が法治国家であることの学習を通じて、法やルールを遵守することにより人権や社会の安全や秩序が守られていることについて、理解を深められるようにしました。(第1号) ○公共の福祉についての理解を深めるとともに、憲法で保障されている自由と権利を守るためには、国民一人一人が義務と責任を果たさなければならないことを認識できるように留意しました。(第3号) ○平和主義の歩みと現状を学習し、未来の平和の構築について考えを深めていく活動を通して、生命の大切さや地球環境を守ることへの自覚を高めることができるよう配慮しました。(第4号)	Op.40～45 Op.57, p.64～65 Op.72～77
第3章 私たちの暮らしと民主政治 学習のはじめに 1節 民主政治と日本の政治 2節 三権分立のしくみと私たちの政治参加 3節 地方自治と住民の参加 学習のまとめと表現	○裁判員制度や模擬裁判の学習を通じて、国民の司法参加の意義について理解を深め、将来の裁判員として司法に参加することへの意識を高められるよう配慮しました。(第3号) ○地方分権のもと、地域の人々が地域の振興や活性化に向けて独自のさまざまな取り組みを行っている事例を学習することで、地域社会が抱える課題の解決に参画しようとする態度を養ったり、郷土に対する愛着を深めたりしていくことができるよう配慮しました。(第3, 5号)	Op.108～111 Op.118～123
第4章 私たちの暮らしと経済 学習のはじめに 1節 消費生活と経済活動 2節 企業の生産のしくみと労働 3節 市場のしくみとはたらき 4節 金融のしくみと財政の役割 学習のまとめと表現	○消費者としての権利と責任を学ぶことや、起業計画を立案し発表する活動を通して、将来の地球社会の形成と、その発展に寄与する態度を養うことができるようにしました。(第1, 3号) ○市場経済における企業の責任について学習するなかで、消費者の安心や安全とともに、地元地域でのぶどうの植え付け活動など、環境への影響に配慮した企業活動が重視されていることに気づくことができるよう配慮しました。(第1, 4号) ○非正規雇用の増加など労働環境の変化をめぐる事例から、公平な雇用環境のあり方への関心を高めたり、生きがいや誇りをもって働く人々の事例から、仕事への興味・関心を高め、勤労の価値を見出したりすることができるように留意しました。(第2号)	Op.132～133, p.146～147 Op.140～141 Op.142～145
第5章 安心して豊かに暮らせる社会 学習のはじめに 1節 暮らしを支える社会保障 2節 これからの日本経済の課題 学習のまとめと表現	○社会保障制度の学習やレポート作成の活動を通じて、制度の現状への理解を深め、今後のあり方や取り組みについて、将来の主権者としての意識を高められるよう配慮しました。(第3号) ○公害問題と環境保全の取り組み、身近なごみ問題、地球規模の環境問題についての理解を深め、環境への負荷を軽減する循環型社会の実現のために、協働や個々の行動が不可欠であることを自覚できるようにしました。(第4号)	Op.170～179 Op.180～181

<p>第6章 国際社会に生きる私たち</p> <p>学習のはじめに</p> <p>1節 国際社会の平和を旨として</p> <p>2節 国際社会が抱える課題と私たち</p> <p>学習のまとめと表現</p>	<p>○再生可能エネルギーの使用と生物の生息環境の関わりや、水資源問題、世界の子どもや女性が抱える問題などを取り上げ、国際的な課題と自分たちの暮らしとの密接な結びつきについて考えるとともに、持続可能な発展や人間の安全保障の考え方について、考察を深めることができるようにしました。(第1, 3, 4号)</p> <p>○北方領土や日本人拉致など、近隣諸国との間で未解決になっている諸問題を取り上げ、近隣諸国とどのような関係を築いて解決を旨するか、また、日本が国際社会で果たせる役割や自己との関わりについて考察を深められるようにしました。(第5号)</p>	<p>Op.212 ~ 221</p> <p>Op.196 ~ 199, p.205</p>
<p>終章 私たちが未来の社会を築く</p> <p>1節 持続可能な未来の社会へ</p>	<p>○義務教育における社会科学習のまとめとして、私の提案「自分を変える、社会を変える」を作成する学習を通じて、地球社会が抱える諸課題に対する自分なりの取り組みを考えるとともに、これからの社会を担っていく一員としての自覚を高めることができるようにしました。(第3号)</p>	<p>Op.228 ~ 234</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書は、教育基本法第5条に示された義務教育の目的や、学校教育法第21条に示された義務教育の目標などを達成するために、特に以下の点に意を用いて編修しています。

特色1 見やすく、わかりやすい紙面

- *教科書の紙面は、ワイドで見やすいA B判を採用し、授業展開や学習の見通しがつかみやすい「1時間＝見開き2ページ」で構成しています。
- *興味・関心を高める写真・絵などの資料も豊富に、かつ効果的に配置しています。

特色2 小学校の学習との関連

- *小学校の学習指導要領に盛り込まれた「事象や人々の相互関係」(社会的な見方・考え方)、「産業と情報との関わり」(情報教育)、「選択・判断、構想」などについて、より深化させた学習が展開できるようにしています。

特色3 ユニバーサルデザインへの配慮

- *色覚等の特性をふまえた、判読しやすい配色(カラーユニバーサルデザイン)やレイアウト、表現方法、文字(ユニバーサルデザインフォント)などの工夫により、すべての生徒にとって学びやすい紙面づくりに配慮しています。

特色4 地球となかよし

- *教科書の印刷には、環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用し、地球環境への負荷軽減に配慮しています。また、印刷にはグリーン電力を使用しています。



▲p.94 「言葉で伝え合おう～メディアリテラシーを学ぼう」

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-37	中学校	社会	公民的分野	3
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
17 教出	公民 902	中学社会 公民 とともに生きる		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、学習指導要領に示された社会科の目標及び内容、内容の取扱いに準拠しつつ、教科と公民的分野の改訂の要点などをふまえて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、特に以下の点に意を用いて編修しています。

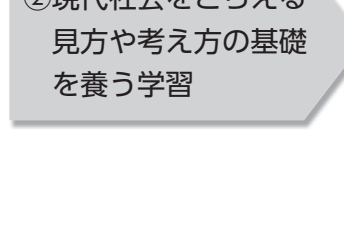
◆ 「公民的分野の改訂の要点」からみた特色

① 現代社会の特色や現代社会における文化の意義や影響に関する学習の重視



▲p.22～23
「伝統文化の継承と文化の創造」

② 現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を養う学習



▲p.30～31 「地域のルールを考えよう」

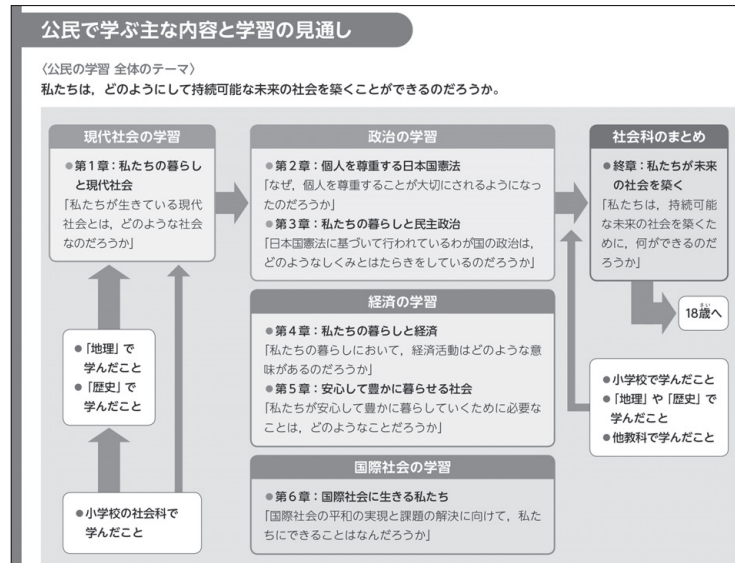
- 第1章「私たちの暮らしと現代社会」では、1節に「現代日本の特色」に関する学習を位置づけています。小学校社会科や地理、歴史で学んできたことを振り返りながら、進展する**グローバル化**、**情報化**、**少子高齢化**などの学習を通して、現代社会の特色がとらえられるように留意しています。
- 第1章の2節に「現代社会における文化の意義や影響」を位置づけ、**科学**と、**芸術**、日本人の**宗教観**、受け継がれる**伝統や文化**と新しい文化の創造の意義について学習できるように配慮しています。
- 第6章「国際社会に生きる私たち」では、2節に「世界の文化や宗教」に関する学習を設定し、**国際社会における宗教**のもつ意味や、文化や宗教の違いをめぐる問題について取り上げ、**多様性**のなかで生きる**寛容な社会の実現**について探究していきます。⇒p.210～211
- 第1章の3節「私たちがつくるこれからの社会」では、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「**対立と合意**」「**効率と公正**」などの概念を、地域でのごみ出しのルールづくりなど身近な事例を取り上げながら、丁寧に解説しています。こうした学習を含む第1章を、公民的分野の導入として位置づけています。



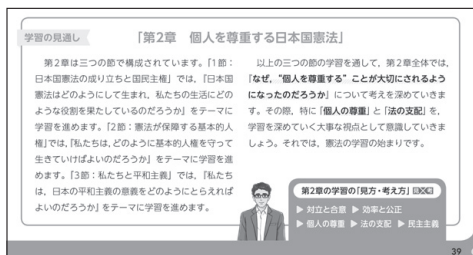
▲p.12～13
第1章「学習のはじめに」

③現代社会をとらえる見方や考え方が効果的に学べる内容構成

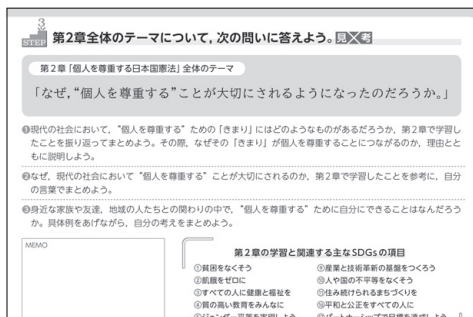
●公民的分野の四つの大項目に示された内容を系統的かつ効果的に学習することができるよう、全体を「現代社会」・「政治」・「経済」・「国際社会」の大きく四つの領域に分けて構成しています。「政治」と「経済」の各領域については、さらに二つずつの章に細分化したうえで、「社会科のまとめ」として行う課題の探究活動を終章として位置づけ、全七章立てとしています。



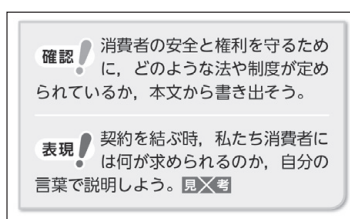
◀p.Ⅲ「公民で学ぶ主な内容と学習の見通し」



▲p.39 第2章「学習のはじめに ～学習の見通し」



▲p.80 第2章「学習のまとめと表現」



▲p.133 「確認」と「表現」

●各章の導入に設けた「学習のはじめに」のページでは、**学習内容と章全体の学習課題**を掲載し、見通しがもてるようにするとともに、その章の学習において着目すべき概念的枠組みとしての『**見方・考え方**』（1章〈現代社会〉：「**対立と合意**」「**効率と公正**」＊以下の各章でも共通／2・3章〈政治〉：「**個人の尊重**」「**法の支配**」「**民主主義**」／4・5章〈経済〉：「**分業と交換**」「**希少性**」／6章〈国際社会〉：「**協調**」「**持続可能性**」）を明示しています。本文の学習においては、これらの概念を活用して考察する場面に、「見×考」マークを付して示しています。また、各章末に設けた「学習のまとめと表現」のページでは、各章で学んだ内容を振り返って整理したり、学習したことを活用して**考察し、構想、表現**したりする**言語活動**を取り入れています。その際、「現代社会」の学習で学んだ「**対立と合意**」、「**効率と公正**」の概念に加え、各章の学習における「**見方・考え方**」をもとに考察し、表現する内容構成に留意しています。

●本文の学習ごとに、学習課題と対応させた「**確認**」と「**表現**」のコーナーを設けました。この時間で学習したことをもとに、「**確認**」では**基礎的事項の確認**、「**表現**」では**社会的事象についての説明や話し合いなどの表現活動**と、段階的に取り組めるように工夫しています。「**表現**」には、「現代社会の見方・考え方」を意識しながら考え、表現する課題も取り入れています。

④ 社会の変化に対応した、法や政治参加、財政などに関する学習の重視



▲p.146 「言葉で伝え合おう～起業にチャレンジしてみよう」

⑤ 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養う学習の重視



▲p.230 「私の提案『自分を変える、社会を変える』をつくらう」

◆ 「教科書の構成や造本」からみた特色

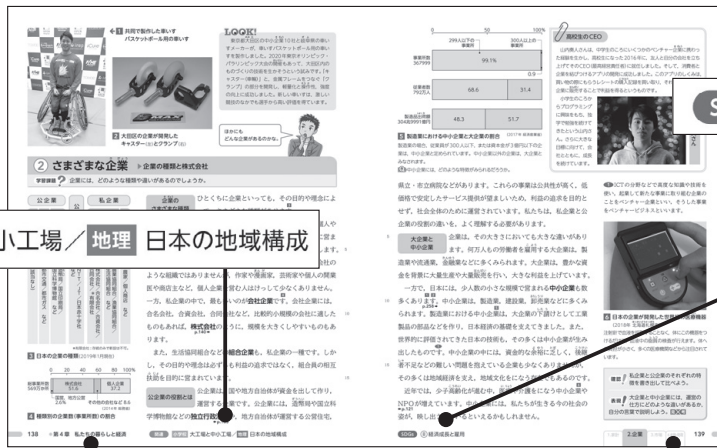
① 基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図る構成

- 第1章の3節「私たちがつくるこれからの社会」では、社会におけるルールやきまりの果たす役割と、契約の重要性やそれを守ることの意義について、身近な事例を通して理解ができるように留意しています。
- 第3章「私たちの暮らしと民主政治」では、1節「民主政治と日本の政治」において、選挙やマスメディアに関する学習とともに、**18歳選挙権**についての学習を設定しました。主権者として**政治参加**することへの理解を深め、意識を高められるよう配慮しています。
- 第4章「私たちの暮らしと経済」では、2節で**生産のしくみと企業の役割・責任や労働**について学び、**起業**とそれを支えるしくみへの理解が深まるように構成しています。
- さらに、第4章の4節「金融のしくみと財政の役割」や、第5章「安心して豊かに暮らせる社会」では、**金融機関と財政**の役割について学び、**財政の持続可能性**と関連づけながら、これからの**社会保障政策のあり方や財源の確保と配分**について、考察を深められるように留意しています。

●社会科の基礎的・基本的な技能の習得を図るために、本文の学習の流れに即して「読み解こう」のコーナーを設け、グラフ・写真・地図などの資料を読み取り、**社会の動きを考察**する学習活動を重視しました。さらに、「Q」や「見×考」のマークを付した問いかけでも、課題意識をもって資料を読み取ることができるよう留意しています。

●終章「私たちが未来の社会を築く」では、社会科のまとめとして小学校社会科や地理、歴史での学習もふまえながら、**持続可能性を妨げる今日的な課題とその解決**について探究します。その際、教科書の導入部で紹介し、ここまでの学習においても常に意識できるようふれてきた、「**持続可能な開発目標(SDGs)**」の17の目標と自己との関わりから、私の提案「自分を変える、社会を変える」を作成する活動に取り組むなかで、持続可能な**多文化共生社会の形成に参画**しようとする態度を養うようにしています。

●**北方領土・竹島の領土問題**や、**尖閣諸島**をめぐる動きなどの今日的な課題についても、近隣諸国とどのような関係を築いて解決を目指すか、また、日本が国際社会で果たせる役割や自己との関わりについて考察を深められるよう、地図や写真とともに複数のページで丁寧に解説しています。⇒p. 196～197, p.198～199



関連 小学校 大工場と中小工場 / 地理 日本の地域構成

●タイトルには、学習内容を象徴的にイメージさせる主題と、学習事項を示す副題をおき、併せて「学習課題」を明示することで、生徒が課題意識をもって学習に取り組めるようにしました。

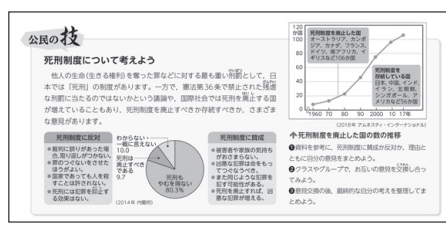
●各時間のページ番号の横に示した「章タイトル」と「節のタイトル（略称）」により、教科書全体における現在の学習単元の位置をとらえやすくしたほか、小見出しと太字の重要語句から学習の要点をつかみやすく工夫しています。

●さらに、脚注部には「小学校、他分野、他教科との関連」や、「関連するSDGs」を適宜表示し、系統的・横断的な学習をしやすくしています。

●難解な用語や補足説明の必要な箇所には、側注解説や「◆」マークによる用語解説を設け、生徒への一助となるよう配慮しました。本文中には、資料との関連を示す番号や、前出・後出箇所との関連を示す参照ページも挿入しています。

●本文の学習から興味や関心を広げていくコラム「公民の窓」、「クリップ」のほか、表現スキルの習得を中心とした「言葉で伝え合おう」、さらに詳しくテーマを掘り下げて考える「読んで深く考えよう」の2種類のテーマ学習のページを設け、個に応じた学びへのアプローチも保障しています。

●本文の学習の中にも、コラムサイズの「公民の技」のコーナーをコンパクトに設け、個人やグループでの活動を通じて公民の学習で身につけたい技能や表現力を養えるよう配慮しています。



▶p.57「公民の技 ～死刑制度について考えよう」

①国内外の新聞各社は、インターネットを使った速報性を大切にしています。最新の記事や情報の配信において、インターネットは重要な役割を果たすようになっています。
◆世論調査
マスメディアや専門会社などが行う、内閣や各政党の支持率、その時々的重要問題などに対する人々の意見の調査をいいます。

▶p.92「側注解説①と◆マークの用語解説」

②個人やグループなど、あらゆる学習形態に応じた学習活動への支援

③さらに学びを広げ、深めるために

●当社ウェブサイトを通して、学習に役立つさまざまな情報を見ることができ「まなびリンク」を設けました。

●一人一人の学びを広げるための情報や資料の収集などに役立ちます。



